

2025年度第3学期終業式（260317）

皆さんおはようございます。2025年度の終業式となりました。こうして全学年集まるのも、最後になりました。

高3の諸君はどこですか。お疲れ様でした。よく頑張ったと思います。入試の結果は悲喜こもごもですが、勝っておごらず負けて悪びれず。その努力をたたえたいと思います。そして前向きであることが何よりも大切だと思います。お疲れさまでした。

さて、今日はまず、2学期の始業式でお話した「7限問題」についての検討結果を報告します。続いていくつか連絡事項に触れ、最後に今年度いっぱい武蔵を去られる先生方を紹介したいと思います。

まず7限問題についてですが、その結論の前に、なぜこの問題が起きたかについて、改めて少し詳しくお話をしたいと思います。

学習指導要領というのがあります。日本全体の小中高校の授業を規定するもので、だいたい10年に一度改訂されます。

高校カリキュラムについては、この学習指導要領に基づいて、2022年度から、変更となり、今年で4年目となりました。このとき改訂の大きな特徴として、社会科の必修科目が増えました。それまでは世界史だけが必修科目でしたが、地理総合、歴史総合、公共という基本的な3科目が必修となり、それらを高校の早い段階で学ばなければなくなり、色々な学校でその対応が迫られ、高1のカリキュラムが窮屈になるという問題が生まれました。

多くの学校では、社会だけの問題ではないのですが、社会の総合3科目のうち高1では二科目だけ教える対応をとりました。武蔵でも、先生方で議論に議論を重ねましたが、社会だけでなく理科も含め、武蔵では幅広い教養を身につけてほしいということと、もう一つは大学入試との兼ね合いで、早めに一通り終わらせて、そのうえで高2高3と進路選択の幅を保証するという観点から、高1については、理科も社会も3科目学んでもらい、第二外国語や組会合以外に週に2コマ7限を増やすという対応をとりました。

ただ実際に7限を行ってみて、高1の負荷が高いという声が多く寄せられました。加えて、武蔵の特色でもある第二外国語履修者や高大連携講座履修者の減少、選択科目として設定した総合講座履修者の減少、そしてそれぞれの自学自習時間が確保できない、さらには委員会活動や部活動などの校友会活動で活動の中心となる高1が7限まで授業があることにより参加が遅れるなどの課題が生じたことにより、高1の時間の余白を増やそうという判断をしました。

そして、具体的にどうやったら、学習指導要領を踏まえつつも、高1の2コマを削ることができるかについて、先生方で慎重に検討を重ねてきました。

その結論です。具体的には、まず、高2で「哲学探究」、これは社会の倫理的な内容が中心ですが、それをなくして、その2コマを空けます。そして空いた「哲学探究」の2コマ分の枠に、高1で行っていた「家庭基礎」を高2に持っていきます。このことにより、高1の2コマ分が減り、高1の7限が2コマ解消されます。

そして実施時期ですが、この解消には、カリキュラムの移行措置が必要ですので、時間がかかります。したがって、2027年度の高1生、つまり現中2生から行い、中3生の諸君については、来年度は高1の7限授業は解消されません。

また、これに連動して、2026年度から中3の社会の「卒業研究」の授業に代えて、高2で行っていた倫理や哲学の内容も踏まえて、中学社会の公民分野の充実を図ります。また、中3の「卒業研究」という形はなくなるので、その趣旨を踏まえ、研究リサーチや探究の手法については、引き続き社会科や他の教科での授業内容に即して教えます。課題研究については、現状でも、中2のみなかみの地域探究の取組が年々進化しており、また高校でも総合講座や高大連携講座などで、研究に取り組む生徒諸君の実践を積極的に奨励したいと考えています。

実は、先生方の間で、この間、この検討を進めていましたが、その内容の一部が生徒にも伝わり、3学期始業式でお話したように、高2の生徒を中心に反対署名が集まり、私も署名を受け取りました。それを踏まえ、2月20日に生徒と先生方との意見交換会を行いました。20名の生徒諸君が集まってきて、私もそうですが各教科主任の先生方など12名の先生方と、3時間にわたり、貴重な意見交換をしました。

生徒諸君の反対意見は、一点目は哲学についてです。高2の「哲学探究」は良い授業なので、なくさないでほしい。そして「哲学」は高2でこそ学ぶ意義があるということ。そして二点目は研究についてです。中3の「卒業研究」も今の形で行うことに意義があり、武蔵における「研究」は大切だということに集約できると思います。

様々な意見は私自身もそうだなあと思うものばかりでしたが、ただ難しいのは部分最適であっても、それが全体最適にはならないということです。意見交換会では高1の7限は解消しなくてもよいという考えの生徒もいましたが、今回我々は、7限解消により、高1が自由に使える時間を作ることは必要だという大きな判断をしました。そして、先ほども述べましたように、学習指導要領を踏まえつつ、カリキュラム作成の前提になる武蔵における教養の大切さや進路選択の幅の保証という視点から考えると、今回の案のほかに代替案を提示することは現実的に困難だと思います。高1の7限を解消するという政策課題を優先すると、結論として、生徒諸君の、現状のままで変えないでほしいという反対の申し出を受けることは難しいと考えています。

ただ、3時間の意見交換の中で、生徒諸君の「哲学」に対する思い、「研究」に対する思い、そして武蔵に対する思いは良く伝わりました。それは、先生方に共有しましたし、今後の授業内容に生かしていきたいと思っています。

また、「哲学」について一言触れると、それを学ぶ意義があるからこそ、他校では現在、必修科目として扱っていない倫理や哲学を、武蔵ではこれまで何とか行ってきたし、今後中高一貫の強みも踏まえ、工夫して扱っていきたいと考えています。また、これは宣伝になりますが、高2でこそ哲学を深めたいという生徒には、毎年、世界の哲学書を読んで対話をするという「アスペンジュニアセミナー」に無料で参加できるという案内を高2対象で募集しています。残念ながら定員が埋まるのが少ない状況です。テキストを読み込むという手間がかかりますが、とても良い取り組みなので、現高1生以下の生徒にも時期が来た案内をしますので、積極的に手を挙げていただけたらと思います。

そして、武蔵にとって「研究」そして「学問」が大切だということも、まったくそのとおりです。先週の土曜日にも図書館棟発表会を見学させていただきましたが、そうした学問や研究の伝統が生徒の自主的な活動として脈々と受け継がれていることを誇りに思います。今回議論の一つになった中3の「卒業研究」については、私が在校生時

代はなく、今の形になったのは2010年度からということで、ここ10数年のものでした。時代の変化に応じて、形は変わっていきませんが、研究や学問を大事にするという根底にある精神・文化は継承しつつ、研究リサーチや探究の手法などを含め、社会科だけでなく各教科を横断する形で、さらに進化させるべく検討を続けていきたいと考えています。

意見交換会での3時間は大変貴重でした。今後も機会をとらえて、生徒諸君と対話をしていけたらと思います。それは私だけでなく、どの先生方も同じ思いですので、何かあったら、先生方の部屋の扉をたたいて行ってほしいと思います。

以上、7限問題についてお話をしました。

続いて連絡事項に入ります。

まず、すでにグーグルクラスルームで案内をしていますが、春休み中の3月30日、視聴覚室を会場に、AIデータサイエンスに関しての武蔵卒業生のスペシャル対談が行われます。現在、武蔵学園はデータサイエンス研究所という機関を設立し、データサイエンスに力を入れています。その広報誌を作成するにあたり、著名な高校OBを呼んで対談をしてもらおうと企画したものです。

対談するのは、一人は日本のAIの最先端の研究者である松原仁さん。51期卒で、元日本人工知能学会会長、東大教授で、現在、京都精華大学情報学教育センター長をやられ、武蔵大学にも特任教授として講義をもたれています。2年前の3月の特別授業にも来ていただき、180名の武蔵生が参加しましたので、高校生は聞いたことがある人もいるかもしれません。もう一人は日本のデータサイエンス最先端の研究者である松岡聡さん。55期卒です。理化学研究所の計算科学センター長で、スパコンの富岳の開発責任者です。松岡さんも3年前3月の木曜会で講演をしていただき、100名の武蔵生が当時はまだコロナの余韻がありましたのでオンラインで聴講しています。対談のテーマは「AI・データサイエンスの最先端」です。対談を聞けるだけでなく、質疑応答もしてくれるそうです。希望者はグーグルクラスルームで案内したフォームから申し込んでください。高3生ももちろん、まだ3月ですのでウエルカムです。奮ってお申込みください。

次に来年度4月に行う創立記念講演会の予告です。講師は造園家の涌井雅之さんで

す。テレビ番組でコメンテーターとして出演されることも多かったので知っている人もいるかもしれません。涌井さんは日本の造園家の第一人者で、まちづくりや里山の重要性、そして環境問題にも大変明るい方です。今、武蔵の生徒諸君も一緒に、学校山林を舞台に取り組んでいる「武蔵百年の森プロジェクト」にも参考になると思います。よかったら、涌井さんが書かれた本を読むなど、準備をしておくとうよいと思います。

もう一点連絡です。実はこのたび、武蔵の公式動画チャンネルを開設し、学園広報部が皆さんのご協力を得て撮影された動画が掲載されています。

私も見ましたが、武蔵の施設の様子や学びの様子が上手に描かれて、よくできています。我ながら、いい学校だなあとつくづく思います。

豊かな自然環境の中で、生徒諸君が自由でのびのびと自分の知りたいこと好きなこと楽しいこと、知好楽を伸ばすとともに、ぜひ人権感覚や公共心も磨いて、頼もしい若者として育ててほしいなあと思います。よくできていますので、ぜひご覧になってください。武蔵の公式 Web サイトの TOP ページにある PICKUP バナー「公式動画チャンネルを開設しました」よりアクセスできます。施設などの動画に加え、ショート動画も見られるとのことでした。

明日はいよいよ卒業式になります。卒業を意味するコメントは「終わり」ではなく、「新たな始まり」という意味だそうです。残念ながらここにいる武蔵生のうち、中学生は参加できません。最後に大きな拍手で、高3生のコメントをお祝いしていただければと思います。

ご清聴ありがとうございました。